

日本遺伝看護学会の活動

日本遺伝看護学会は、遺伝看護実践の拡充、教育による啓発、研究の推進と社会への還元を目指して活動しています。

学術大会の開催や公開学習会の企画運営、

メーリングリストを活用した学会員の情報交換の促進のほか、
遺伝医療に関する政策の場へも積極的に働きかけています。

すべての人が暮らしやすい社会を目指して、市民の皆様と共に
学び合い、考え、歩む活動を大切にしています。

入会について

- 入会申し込みはホームページからできます。

<http://www.idenkango.com>



- ご不明な点は日本遺伝看護学会事務局にお問い合わせ下さい。

日本遺伝看護学会事務局

e-mail: info@idenkango.com



日本遺伝看護学会

Japanese Society of Genetic Nursing

遺伝看護の実践・教育・研究を通して、
遺伝医療における看護職の役割を明確にし、
遺伝看護の拡充と
質の向上を図ることを目指します

このような相談を受けたことはありませんか

がん家系かどうか遺伝子検査でわかりますか。

遺伝子検査を受けると何でもわかるのですか。

私の病気は子どもに遺伝しますか。

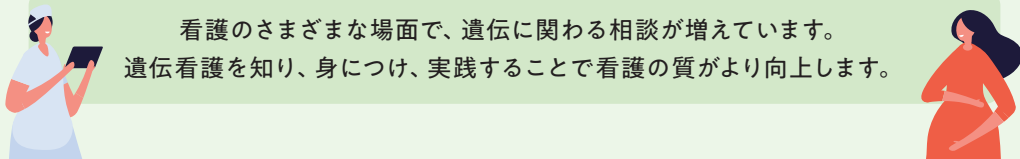
NIPTとはどんな検査ですか。

高齢妊娠なので先天性疾患が心配です。

両親が糖尿病なので私も糖尿病になりますか。

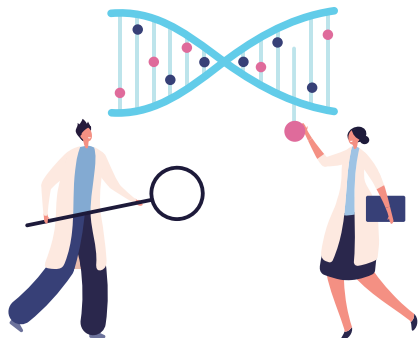
がんの治療のための遺伝子検査で、遺伝する病気がわかりました。どうしたらいいでしょうか。

看護のさまざまな場面で、遺伝に関わる相談が増えています。遺伝看護を知り、身につけ、実践することで看護の質がより向上します。



遺伝医療の進歩

遺伝子は身体の構造と機能の設計図です。近年の科学技術の進歩により、2000年代になってヒトの全ゲノムの情報が分かってきました。それに伴って様々な遺伝子の機能が解明され、疾患の原因や機序も明らかになってきました。



遺伝/ゲノム看護について

「遺伝/ゲノム看護は、遺伝という課題をもちながら社会で生活する人を支え、より良い暮らしができるよう支援していきます。遺伝医療の進歩により正確な診断や適切な治療が可能になってきた一方で、遺伝子を調べることで治療が難しい疾患であることが分かったり、将来発病する可能性がある疾患が分かったり、その可能性を血縁者で共有していたりと、不安や心配も抱えなければなりません。

お一人お一人が症状を抱えながらも、適切な医療を受けることで発症予防や疾患の早期発見につながるよう支え、より良い生活が送れるよう健康行動を共に考えていく支援を行います。

遺伝医療における看護師の役割

当事者・血縁者、カップルが抱えるニーズの明確化

看護は当事者の最善の意思決定を支える者として、顕在的・潜在的課題を明確にし、一緒に考えていきます。

生涯にわたる生活の支援

遺伝看護は遺伝性疾患の当事者や血縁者の疾患のリスクや進行度をアセスメントし、適切な保健行動を支え、促します。

社会・心理的支援

遺伝性疾患とともに社会の中で暮らしていくことは、ストレスを感じることも少なくありません。看護は当事者が生活に適応していく過程を支援します。

チーム医療での協働

遺伝性疾患は複数の診療科、職種がかかわることになります。看護は各専門職のなかで看護の視点を活かして協働していく役割が求められています。

